

プレスリリース
2026 年 6 月 24 日
Tokyo Gendai 広報事務局

日本を代表する国際アートフェア「Tokyo Gendai」
第 4 回を 2026 年 9 月に開催
出展ギャラリーおよび展示セクターを発表



- 現代アートに特化した日本最大級の国際アートフェア「Tokyo Gendai」が 2026 年 9 月 11 日 (金) から 13 日 (日) までパシフィコ横浜にて開催。招待客向けプレビューおよびヴェルニサージュは 9 月 10 日 (木) に実施。前売チケットは 7 月 1 日 (水) より販売開始
- 展示セクターは、従来の「Galleries」「Hana 'Flower」「Eda 'Branch」に加え、新たに紙を媒体とする作品に特化した「Miki 'Trunk」が創設。デジタルメディアに焦点を当てた「Tane 'Seed」も復活

日本最大級の国際アートフェア「Tokyo Gendai」は、第4回を2026年9月11日(金)から13日(日)まで、パシフィコ横浜にて開催いたします。日本、欧米、アジア、オセアニア、南米と世界各地から注目のギャラリーおよびアーティストの作品が集結。意欲的かつ多様な現代アート作品の展示が展開され、「芸術の秋」の皮切りにふさわしい、世界のアート・エコシステムの最前線に触れる絶好の機会となります。前回に続き、株式会社三井住友フィナンシャルグループ(以下、SMBCグループ)をプリンシパルパートナー、DIORをオフィシャルプレミアムパートナー、Perrier-Jouëtをオフィシャルシャンパーニュパートナーに迎えます。7月1日(水)より、[ArtSticker](#)にて前売り券が販売開始となります。

グローバルに活動を展開する出展ギャラリーによる領域横断的で幅広いプレゼンテーションは、テーマごとの展示セクターに分かれ展開されます。基幹となる「Galleries」「Hana 'Flower'」「Eda 'Branch'」の各セクターのほか、写真を含む紙や印刷作品に焦点を当てた「Miki 'Trunk'」が新設。また、デジタルメディアに焦点を当てた「Tane 'Seed'」が2年ぶりに実施され、現代アートの多様な表現が会場全体に広がります。

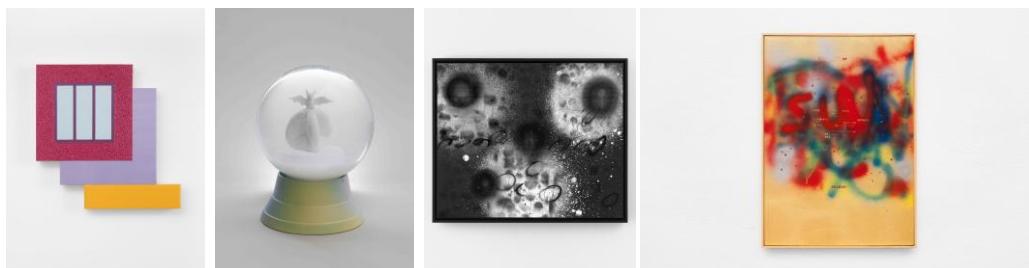
出展ギャラリーによるプレゼンテーションに加え、例年通りトーク、インスタレーション、パフォーマンスなど多彩なパブリックプログラムを通して、Tokyo Gendaiは、対話・発見・創造が交差する次世代アート体験の場としてさらに進化します。詳細は7月以降の発表を予定しています。

■出展ギャラリーと展示セクター

Tokyo Gendaiは、63*のギャラリーを「Galleries」「Hana 'Flower'」「Eda 'Branch'」「Miki 'Trunk'」「Tane 'Seed'」の5つの主要セクターに分け、国際的に著名なアーティストの代表作から、最前線で活躍する若手アーティストまで現代アートを幅広く紹介します。

Galleries

「Galleries」のセクターでは、Pace Gallery (ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、ジュネーブ、ベルリン、ソウル、東京)やSadie Coles HQ (ロンドン)をはじめ世界各地を代表するギャラリーが、複数のアーティストのキュレーションを展示します。



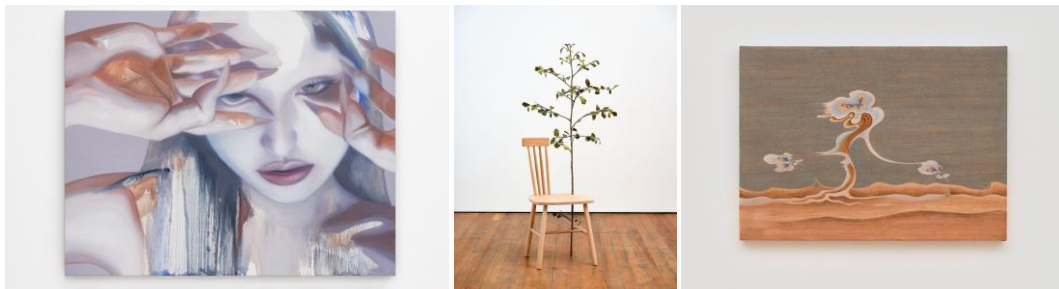
(左から) Peter Halley, *Magenta-prison* (2026) Courtesy of Ceysson & Bénétière | Benoît Piéron, *Steiner* (2026) ©Benoît Piéron Photo by Keizo Kioku Courtesy of TARO NASU | Adam Pendleton, *Untitled (Days)* (2026) © Adam Pendleton Photo: Elizabeth Bernstein Courtesy of Taka Ishii Gallery | Stefan Brüggemann, *Island painting (search sun)* (2025) Courtesy of Artist, KOTARO NUKAGA

- タカ・イシイギャラリー (東京、京都、前橋): ニューヨークを拠点とするアーティスト、アダム・ペンドルトンの新作を厳選して展示。あわせて、伝統的な民芸のモチーフに着想を得た長沢楓の絵画作品、そして自身の身体の物理的拡張を探究し、個人的かつ主観的な体験を生態学や領域性の問題と結びつけながら、新たな次元へと押し広げる大上巧真の作品も展示。
- TARO NASU (東京): 田島美加、ブノワ・ピエロン、ライアン・ガンダーをはじめとした国内外の作家によるグループ展を開催。概念的かつ物質的、また知覚的な探究を通じて社会と関わる独自の方法論に焦点を当てる。

- Gana Art (ソウル、ロサンゼルス)：一瞬の瞬間を捉え再解釈する 5 人のアーティストを紹介。出品作家はベルナール・ピファレッティ、イ・サングク、レア・ベルーソヴィチ、鈴木のぞみ、ユ・ヘジン。
- セイソン&ベネティエール (サン・テティエンヌ、ルクセンブルグ、パリ、ジュネーブ、ニューヨーク、リヨン、パネリ、東京)：厳格な抽象と批判的でコンセプチュアルな実践を、詩的かつプロセス重視のアプローチとともに提示し、世代と文化を超えた対話を創出している。出品作家はクレア・シェニエ、ロベール・コンパス、ヴィム・デルボア、ピーター・ハリー、ベルナール・ピファレッティ、パオ・ヴォン、クロード・ヴィアラ。
- KOTARO NUKAGA (東京)：ホセ・パルラ、松山智一、森本啓太、松川朋奈、マイケル・リキオ・ミング・ヒー・ホー、井上七海、上田暁子、木津本麗、飯川雄大、ステファン・ブルグマンの作品を展示。
- The Page Gallery (ソウル)：韓国の抽象芸術運動「単色画 (ダンセツファ)」の巨匠である崔明永 (チェ・ミョンヨン) と、韓国現代彫刻の先駆者である朴錫元 (パク・ソグォン) の作品を展示。
- space Un (東京)：セネガル、カメルーン、ナイジェリア、ジンバブエ、ルワンダ出身の著名なアーティストや新進気鋭のアーティストたちの作品を通じて、アフリカ大陸を横断する地図のようなブースを展開。出品作家はアリウ・ディアック、バルテレミー・トグオ、デルフィーヌ・ディアロ、ジデフォ・アメガツィ、ファデケミ・オグンサニヤ、リチャード・ムゼルフ、ジョエル・ンパドゥー、セリーニュンバイ・カマラ、ソラ・オルロデ、ワイクリフ・ムンドーパ。
- ア・ライトハウス・カナタ (東京)：所属アーティストの中から、素材の探求に焦点を当てた作品を多数展示。彫刻作品には尾崎悟、三原研、亘章吾、生田丹代子、絵画作品には武井地子、佐藤健太郎、長谷川幾与、大島幸子が名を連ねる。

Hana 'Flower'

「Hana 'Flower'」は、若手や中堅アーティストによる個展やグループ展を特徴とするセクターです。



(左から) Yukino Yamanaka, *open* (2025) Courtesy of Artist and CON_ | Zac Langdon-Pole, *Another World Inside This One (Oak Windsor Chair)* (2026) Photo: Sam Hartnett Courtesy of Lett Thomas | Yuka Mori, *Night Gust* (2025) Photo by Osamu Sakamoto Courtesy of Yutaka Kikutake Gallery

- Lett Thomas (オークランド)：ザック・ラングドン=ポールの作品群を展示。「帰属」という問いを形式的、概念的な視点から探求し、私たちの世界観を深く見つめ直す。
- CON_ (東京)：山中雪乃の個展ブースを開催。本展では、Tokyo Gendai のために特別に制作された全く新しい作品群を展示し、人体とその不安定な状態という現象の間に現れる、形のない存在を探索する。
- Yoshiaki Inoue Gallery (大阪)：パトリシア・ピッチニーニ、太郎千恵蔵、中辻悦子、北川宏人の作品を展示し、ポストヒューマンズムの概念を多角的に展開。
- Yutaka Kikutake Gallery (東京)：白旗花呼と森夕香による新作を展示。身体、イメージ、知覚の流動的な関係性を探索する。

- W-Galería (ブエノスアイレス、マルドナド) : マックス・ゴメス・カンレの個展では、天然顔料や素材を用いて制作された、豊かな絵画的言語が際立つ絵画やオブジェが展示される。

Eda 'Branch'

「Eda 'Branch'」は、著名なアーティストや美術史的に重要な作家による個展やグループ展に加え、特定のテーマに基づいてキュレーションされた展示を紹介します。



(左から) Yukiya Izumita, 積層オブジェ(2024) Courtesy of Ippodo gallery Tokyo | Daisuke Nakano, Magnolia 'Luminous Wind' (2018) Courtesy of Ippodo gallery Tokyo

- 一穂堂ギャラリー (東京) : 日本の伝統、自然、現代社会の交差を探究する泉田之也、KAKU、中野大輔、池田晃将、本間秀昭、鈴木祥太ら 6 人の現代アーティストによるテーマ展を開催。
- みぞえ画廊 (東京、福岡) : 長きに亘りイタリアで活躍し、日本の伝統的な造形概念と西洋の空間概念を融合させ、木、ブロンズを用いた独自の抽象彫刻で知られる日本人彫刻家・豊福知徳の個展を開催。

Miki 'Trunk'

本年の Tokyo Gendai で新設される「Miki 'Trunk'」は、写真、ドローイング、版画など、紙を媒体とする作品に特化したセクターです。このセクターでは、日本の視覚文化に不可欠な多くの技法を含む、紙を用いた長きにわたる伝統的な制作手法を称えると同時に新たな解釈も紹介します。

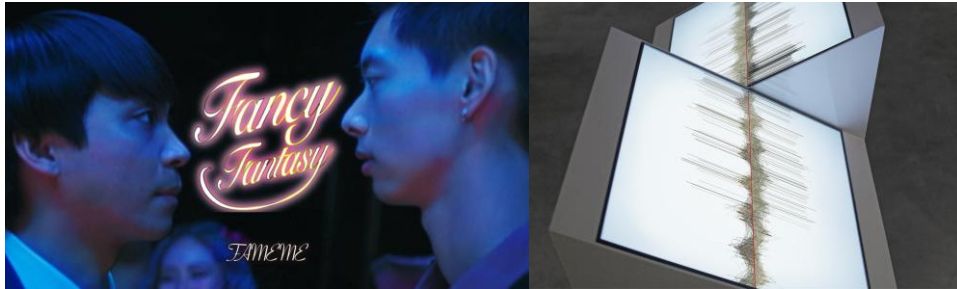


(左から) Mia Liu, Blue and White Tarp (2022) Courtesy of UP Gallery and Artist | Mia Liu, Desolation and Rebirth (2022) Courtesy of UP Gallery and Artist | PABLO PICASSO, B0908 La Pique (1959) Courtesy of John Szoke Gallery | Toko Shinoda, Silence (2004) Courtesy of The Tolman Collection

- BANGKOK CITYCITY GALLERY (バンコク) : 現代アートの文脈において写真や映像を扱うミティ・ルアングリタヤー、ハリット・スリッカオ、アピチャップン・ウィーラセタクン、チャンタナ・ティプラチャート、タナチャイ・バンダーサクなど 5 人のタイ人アーティストの作品を展示。社会、記憶、知覚をめぐる問いと、イメージ制作のプロセス双方に焦点を当てる。
- Revolver Galería (ブエノスアイレス、リマ) : テキストや表面、印刷物の変容をテーマとして、ホセ・ルイス・マルティナットとジェリー・B・マーティンの 2 人のアーティストによるブースを展開。

Tane 'Seed'

今年の Tokyo Gendai では「Tane 'Seed」セクターが復活。NFT (非代替性トークン)、アニメーション、映像、AR (拡張現実)、VR (仮想現実)、ゲームなどデジタルメディアに焦点を当てた展示を紹介します。また、Tokyo Gendai 初の取り組みとして、同セクター内に特別プロジェクトを新設し、選りすぐりの台湾のギャラリーとアーティストを特集します。



(左から) FAMEME, *Fancy Fantasy!* (2024) © FAMEME. Courtesy Chi-Wen X MOV Collection | Ryoichi Kurokawa, *elementum #2* (2018) Artworks © RYOICHI KUROKAWA, Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art Photo by Ken Kato

- TAEX (ロンドン): マリーナ・アブラモヴィッチのアバタープロジェクト (TAEX のサポートにより制作)、ケビン・アボッシュによる合成写真シリーズ「Goldfish」、フランチェスコ・ディサによる機械の想像力をテーマにした哲学的な作品を紹介。
- Chi-Wen (台北): FAMEME (余政達 / ヨ・チュンタ) による『Fancy Fantasy!』を展示。消費社会が生む「偽りのロマンス」を描く本作は、従来の関係性のあり方を組み替え、現実とフィクションを混在させながら、固定化されたジェンダーの枠を超えた感情や欲望を生み出している。
- Project Fulfill Art Space (台北): 張旭展 (ジャンシュウ・ジャン) の作品 2 点を展示。
『The Termite Feeding Show』は、シロアリによる大規模停電という実際のニュース事件に着想を得て張旭展が制作した SF 寓話で、生身の俳優がシロアリを演じ、人間のありようを寓意的に映し出している。『AT5 – Animal Story Series』は、世界各国の民話の物語構造を探求している。
- Double Square Gallery (台北): 崔廣宇 (ツァイ・クワンユ) による『We Are Not Performing』を展示。本プロジェクトは、人間と社会が互いに適応し合う関係を探求しながら、現実に対処し、そのあり方を再定義する方法を模索する試みである。
- Takuro Someya Contemporary Art (東京): 音と映像、データと物質の間を行き来し、鑑賞者の身体を体験の一部として取り込む黒川良一の作品を展示。

※出展ギャラリーに関する情報は 2026 年 6 月 24 日時点のものです。会期までに予告なく変更する可能性があります。

■主催者および関係者コメント

Tokyo Gendai フェアディレクター 高根枝里

「毎年 Tokyo Gendai の会期としてその前後の期間は、新たなつながりやコラボレーション実りある対話に彩られ、日本における現代アートの真の祭典となっています。若手アーティストとともに活動を展開する新進ギャラリーから業界をリードする著名なギャラリーまで、これほどダイナミックな出展ギャラリーを再びお迎えできることを大変嬉しく思います。Tokyo Gendai では、会場全体を通して何世紀にもわたり芸術を形作ってきた様々な手法と、未来を切り拓く新たな創造の試みと、その双方に開かれた場を提供しています。9月にパシフィコ横浜にて皆様をお迎えできることを心待ちにしています」



Tokyo Gendai 共同創設者 マグナス・レンフリュー (Magnus Renfrew)
「過去3回の素晴らしい開催に続き、今年9月にTokyo Gendaiを開催できることをうれしく思います。これまでに寄せられた好意的な反響は、世界のカルチャーシーンとアートマーケットにおいていかに日本が重要な役割を果たしているかを示しています。Tokyo Gendai は、異文化間の交流を活性化し、世界中からの来場者に日本の現代アートの幅広さと卓越したクオリティを体験いただくために設立されました。4回目の開催となる本フェアを通じて、この使命をさらに前進させてまいります」



SMBCグループ 社長 中島達

「今年も、Tokyo Gendai のプリンシパルパートナーを務められることを、大変光栄に思います。世界と日本をつなぐTokyo Gendai が、多様な価値観と創造性が交わる場となり、日本のアートマーケットの発展と、社会的価値の創出につながることを祈念しています」

■Tokyo Gendai 開催概要

開催日時: 2026年9月11日(金) - 13日(日)
*招待客向けプレビューおよびヴェルニサージュは9月10日(木)に開催

開催場所: 横浜国際平和会議場 (パシフィコ横浜) 展示ホール C/D
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

チケット販売: 一般 前売り 4,000 円 / 通常 5,000 円
ヴェルニサージュ 30,000 円
大学生 1,500 円
中高生/障がいのある方 1,000 円
*前売りは7月1日(水)から8月23日(日)まで発売
*小学生以下のお子様は無料
*すべて税込

チケット購入: 7月1日(水)より [ArtSticker](#) にて発売開始予定

■出展ギャラリー一覧 *6月24日時点

Galleries

ア・ライトハウス・カナタ (東京)、セイソン & ベネティエール (サン・テティエンヌ、ルクセンブルグ、パリ、ジュネーヴ、ニューヨーク、リヨン、パネリ、東京)、ギャラリー サイド 2 (東京)、Gana Art (ソウル、ロサンゼルス)、カイカイキキギャラリー (東京)、KOSAKU KANECHIKA (東京)、KOTARO NUKAGA (東京)、ミヅマアートギャラリー (東京、シンガポール)、NANZUKA (東京)、Pace Gallery (ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、ジュネーヴ、ベルリン、ソウル、東京)、Sadie Coles HQ (ロンドン)、space Un (東京)、Sundaram Tagore Gallery (ニューヨーク、シンガポール、ロンドン)、タカ・イシイギャラリー (東京、京都、前橋)、TARO NASU (東京)、The Page Gallery (ソウル)、Upsilon Gallery (ニューヨーク、ロンドン、ミラノ、香港)

Hana 'Flower'

A2Z Art Gallery (パリ)、AAIE Center for Contemporary Art (ローマ、香港)、Art of Nature Contemporary (香港、福州)、AWASE gallery (東京)、CON_ (東京)、ギャラリー門馬 (札幌)、Dom Art Gallery (ドバイ)、Gallery Common (東京)、GEEK/ART (東京、デリー)、HARUKAITO by ISLAND (東京)、Jacob Arthur Gallery (ロサンゼルス)、JD Malat Gallery (ロンドン、ドバイ)、鎌倉画廊 (鎌倉)、LA BIBI GALLERY (パルマ・デ・マヨルカ、メキシコシティ)、Lett Thomas (オークランド)、Lux Feminae (ニューヨーク、ロンドン、パリ、メキシコシティ)、MAKI Gallery (東京)、Marco Gallery (大阪)、MISA SHIN GALLERY (東京)、MtK Contemporary Art (京都)、NOGADA (ソウル)、Nomadic Gallery (東京)、Sofi Gallery (ベルガモ、ニューヨーク、上海)、STANDING PINE (名古屋、東京)、Suppoment Gallery (ソウル)、Verduyn Gallery (モレグム)、W-Galería (ブエノスアイレス、マルドナド)、Wada Fine Arts Y++ (東京)、Yoshiaki Inoue Gallery (大阪)、YUMEKOUBOU GALLERY (京都、香港、パリ)、Yutaka Kikutake Gallery (東京)

Eda 'Branch'

一穂堂ギャラリー (東京、ニューヨーク)、みぞえ画廊 (東京、福岡)

Miki 'Trunk'

BANGKOK CITYCITY GALLERY (バンコク)、Curatorial Gallery (ロンドン)、Fabrik Projects (ロサンゼルス)、form gallery (ディナール)、John Szoke Gallery (ニューヨーク)、Revolver Galeria (リマ、ブエノスアイレス、ニューヨーク)、ザ・トールマン コレクション (東京、ニューヨーク)、UP Gallery (新竹市)

Tane 'Seed'

Chi-Wen (台北)、Double Square Gallery (台北)、Project Fulfill Art Space (台北)、TAEX (ロンドン)、Takuro Someya Contemporary Art (東京)

■パートナーについて

SMBC グループについて

SMBC グループには、時代とともに芸術活動を支えてきた長い歴史があり、各種イベントへの協賛や、本部ビルを活用したアート作品の展示などを通じて、アーティストの表現活動支援や、作品を身近に感じていただける機会の提供に努めてまいりました。2026 年度からの新たな中期経営計画においても、社会的価値創造の取組を一層高度化することを掲げています。SMBC グループは、これからもアートの魅力を広くお伝えし、創造性が社会に新たな価値をもたらす機会を支えながら、人々の幸せがふれる社会の実現に貢献してまいります。

DIOR について

ディオールの創設者である、クリスチャン・ディオールは、芸術を愛するコレクターであり 23 歳の時に友人と共にギャラリーを開きました。1946 年のメゾン創設以来、彼は自身の夢を魅力的なクリエイションに昇華させ、10 年間でエレガンスの常識を革命的に変えました。彼の後継者たちは芸術との大胆で革新的なつながりを通じて、その情熱と遺産を受け継いでいます。

Perrier-Jouët について

ペリエ ジュエは 1811 年にエペルネで創立されたフランス屈指の歴史あるプレステージ・シャンパーニュメゾンです。シャルドネを基調としたエレガントで花のようなスタイルが特徴。1902 年にエミール・ガレが描いたジャパニーズ・アネモネ(秋明菊)がメゾンの象徴になり、以来、クリエイティブな才能との共同制作を通じて自然とアートへの深い敬意を体現しています。

Tokyo Gendai について

Tokyo Gendai は、国際的に著名な現代アートギャラリーが一堂に会して、アート作品の展示・販売を行う世界レベルのフェアで、2023 年 7 月に初開催されました。アート作品の販売だけでなく、日本と世界のアートシーンをつなぎ、ギャラリーやアーティスト、コレクターやオーディエンスといった幅広いアートコミュニティが集うプラットフォームとして、新たな視点やアイデアの共有を促進します。本フェアでは、ギャラリーによる展示だけでなく、特設の展覧会やアートトーク、インスタレーションといったパブリックプログラム、そして日本各地の美術館と連携したオープニングイベントやアーティストスタジオ訪問などの招待客向けプログラムも併せて開催され、多角的なアート体験を提供します。

Tokyo Gendai 公式サイト: <https://tokyogendai.com/ja/>

Tokyo Gendai 公式 X: <https://twitter.com/tokyogendai/>

Tokyo Gendai 公式 Facebook: <https://www.facebook.com/tokyogendai/>

Tokyo Gendai 公式インスタグラム: <http://instagram.com/tokyogendai/>

■ オフィシャル素材

https://dentsuprc.jp/Exhibitors_Announcement

※Password: TokyoGendai2026

※画像を使用する際、フォルダ内のクレジット一覧に記載されているクレジットをご表記ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

Tokyo Gendai 広報事務局 E メール: press@tokyogendai.com